

「障害の多様化に対応した職業リハビリテーションツールの効果的な活用に関する研究」 における利用者アンケートから

○田村 みつよ（障害者職業総合センター 研究員）

山科 正寿・武澤 友広・村久木 洋一・渋谷 友紀・國東 菜美野・知名 青子・小池 磨美・
井口 修一・田中 歩（障害者職業総合センター）

1 背景と目的

平成11年から障害者職業総合センターで開発を始めた「職場適応促進のためのトータルパッケージ」（以下「トータルパッケージ」という。）は、開発当初、対象として想定していた高次脳機能障害者や統合失調症者だけでなく、気分障害等による休職者に対する復職支援や、成人後に「発達障害」と診断された人等の就労支援のニーズが高まる中こうした対象者の多様化に対応すべく、作業課題や書式の改訂を行ってきた。

こうした支援ニーズの変化において、MWSの活用が広がる一方で、MSFASやM-メモリーノートなどトータルパッケージの各ツールを組み合わせることで、より効果的な支援が可能となる点について、共通認識を図ることの重要性が指摘されている¹⁾。

また、適切な活用方法が理解されないまま、単なる作業のツールとしてMWSが普及することのリスクも指摘されており、既存のDVDに代わる研修教材の開発を含めた伝達方法の検討が課題である²⁾という指摘もある。

そこで本稿では、伝達方法の検討を行うに先立ち、トータルパッケージ購入者にアンケートを行い、活用の実態及び研修等のニーズの把握を試みた。

2 方法

(1) 調査の対象及び実施時期

トータルパッケージの活用実態及び研修等へのニーズを把握することを目的として、MWS及びM-メモリーノートを既に購入している機関を対象にアンケート調査を実施した。地域障害者職業センター（52か所、以下「地域センター」という。）にはメールにより令和元年8～9月の期間で、それ以外の機関（697か所、以下「当機構以外の機関」という。）には紙筆調査を郵送により令和元年12月～令和2年1月の期間で実施した。

(2) 質問項目

ア 支援業務の実施頻度

トータルパッケージ開発時に想定されていた、ツールを活用しての支援業務内容から立項して15項目設け（表参照）、その実施頻度を「頻繁に（実施した）」「時々（実施した）」「まれに（実施した）」「（実施）しなかった」の4件法で聞いた。

イ トータルパッケージのツール・技法の認知度と活用頻度

トータルパッケージのツール（WCST、M-メモリーノート、MWS（簡易版）、MWS（訓練版）、MSFAS、グループワーク（以下「GW」という。））6種各々について知っているか知らないか、また知っている場合の活用頻度を上記アと同様に4件法で聞いた。

ウ 情報提供についての希望

トータルパッケージ活用のために希望する情報提供の形式（ホームページ、講座、事例検討会、トータルパッケージの体験を伴う研修、冊子、動画、その他）と、内容（トータルパッケージの理論的背景、トータルパッケージの実施手続き、就労支援業務におけるトータルパッケージの有効な運用方法、応用行動分析に基づくトータルパッケージの利用方法、トータルパッケージの活用事例、その他）について選択肢を設け、希望する形式・内容を複数選択が可能として尋ねた。

(3) 回答状況

回収された回答数は、地域センターから40件（回収率;76.9%）、当機構以外の機関から231件（回収率;33.1%）であった。

3 結果

(1) 調査対象機関の属性

当機構以外の機関で回答のあった231件のうち122件（52.8%）が就労移行支援事業所で、そのうち単体施設が77件、多機能が42件、多機能のうち最も多いものが就労継続支援事業所B型との併設で27件、また新規に設置が認められた定着支援事業所との併設も4件あった。

(2) 支援業務の実施頻度

実施頻度を間隔尺度とみなして「頻繁に」を4点、「時々」を3点、「まれに」を2点、「しなかった」を1点に換算して平均値を算出し、地域センターと当機構以外の機関で比較した（表）。

Mann-WhitneyのU検定を行ったところ、「シ）スケジュール管理」（ $p=0.11$ ）を除くすべての項目において地域センターの方が実施頻度が高いことを示す有意な差がみられた。

表 支援業務の実施頻度平均

	地域センター			当機構以外の機関			Mann-Whitney
	有効回答数	平均値	SD	有効回答数	平均値	SD	
ア) 対象者の作業遂行能力を支援者が把握する	40	4.00	0.00	224	3.56	0.78	**
イ) 対象者の障害特性が作業場面でどのような形で現れるかを、支援者が把握する	40	4.00	0.00	223	3.52	0.79	**
ウ) 対象者が安定して効率的に仕事ができる職場環境や補完方法を、支援者が把握する	40	3.93	0.26	220	3.38	0.90	**
エ) 対象者の興味・関心がある作業を、支援者が把握する	40	3.93	0.26	219	3.27	0.92	**
オ) 対象者のストレス・疲労への対処方法を確立するための情報を、支援者が把握する	40	3.90	0.30	220	3.18	0.94	**
カ) 自身の作業遂行能力を、対象者が理解するための支援	40	3.88	0.40	223	3.30	0.90	**
キ) 自身の障害特性が作業場面でどのような形で現れるかを、対象者が理解するための支援	40	3.93	0.26	220	3.13	1.01	**
ク) 安定して効率的に仕事ができる職場環境や補完方法を、対象者が理解するための支援	40	3.80	0.51	218	3.13	1.01	**
ケ) 自身の興味・関心がある作業を、対象者が理解するための支援	40	3.80	0.40	221	3.01	1.00	**
コ) ストレス・疲労の対処方法を確立するための情報を、対象者が収集・整理するための支援	40	3.78	0.47	217	2.94	1.02	**
サ) 対象者の障害受容を促すための支援	40	3.50	0.81	216	2.93	1.04	**
シ) 対象者自身で仕事のスケジュールや進め方を管理できるようにするための支援	40	3.13	0.93	217	2.82	1.07	
ス) 安定して効率的に仕事をするための補完方法を、対象者が獲得するための支援	40	3.38	0.83	216	3.00	1.02	*
セ) ストレス・疲労の対処方法を、対象者が獲得するための支援	40	3.68	0.57	215	2.97	1.00	**
ソ) 対象者、支援者、家族、関係機関等間で対象者の情報を共有する	40	3.73	0.45	219	3.14	0.93	**

得点レンジ 4＝頻繁に 3＝時々 2＝まれに 1＝しなかった
Mann-WhitneyのU検定 *p<0.05 **p<0.01

(3) トータルパッケージのツール・技法の認知度と活用頻度

地域センターにおけるトータルパッケージのツール・技法の認知度は95%以上であったが、当機構以外の機関は最大; MWS(簡易版)88.3%、最小;WCST;45.9%と認知度が低い傾向にあった。

活用頻度を間隔尺度とみなして「頻繁に」を4点、「時々」を3点、「まれに」を2点、「しなかった」を1点に換算して平均値を算出し、地域センターと当機構以外の機関で比較した(図)。

Mann-WhitneyのU検定を行ったところ、GW(p=0.43)を除くすべての項目で地域センターの方が活用頻度が高いことを示す有意な差が見られた。

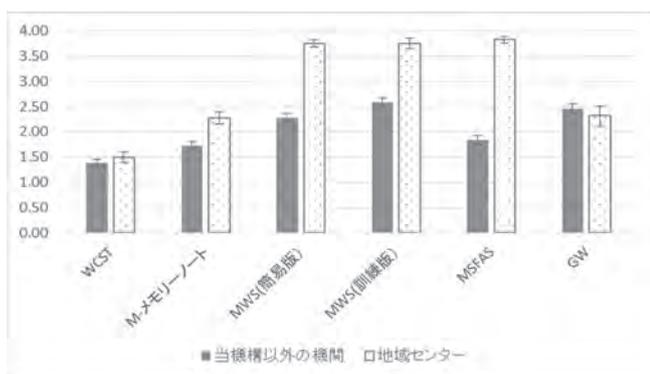


図 ツール活用頻度

(4) 情報提供についての希望

希望する情報の提供形式については、地域センターでは動画(80.0%)、次いでホームページ(65.0%)が、当機構以外の機関ではホームページ(59.7%)、次いで体験を伴う研修(53.2%)が多かった。

希望する情報提供の内容は、地域センター(85.0%)、当機構以外の機関(77.1%)共に、「就労支援業務におけるトータルパッケージの有効な運用方法」(以下「“運用方法”」という。)が最多であった。

4 考察と今後の展望

アンケートから、当機構以外の機関では平均的にトータルパッケージの活用実績があまり高くない実態が明らかになった。

職リハツールが障害の多様化に対応し有効に機能するためには、実施率の低い「障害受容の促進」や「対処方法の把握、獲得」といった支援課題について、当機構以外の機関に知識を普及する必要がある。さらに、その知識がより有効に活用されるためには、職業評価の場面に限らず、一定期間を要しての実践的体験と振り返りを提供する場の設定つまり、GWやそこでの課題整理シート;MSFASやM-メモリーノートの総合的な活用が重要となる。

また、これまでのトータルパッケージの研究開発の過程で、当初設定された有効な運用方法がわかりにくくなってきているのも事実である。最も回答の多かった“運用方法”について、的確な情報の整理と提供が検討されている。

トータルパッケージ活用機関の対象範囲が、トータルパッケージ開発当初の想定から大幅に拡大してきている今日、就労支援技法の十分な伝達普及のためには、基礎理論のより具体的でわかりやすい解説と、その体系下で構成された各ツールを用いた一連の支援技法について、動画などを活用した教材の開発が求められていると考えられる。

【引用文献】

- 1) 障害者職業総合センター『障害の多様化に対応したワークサンプル幕張版(MWS)改訂に向けた基礎調査』,「資料シリーズNo.72」,(2013),p.93-95
- 2) 障害者職業総合センター『障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発(その2)ーワークサンプル幕張版(MWS)新規課題の開発ー』,「調査研究報告書No.145」,(2019),p.199